

● 主な活動の記録

1月12日(土) 定例活動一矢田山遊びの森

あいにくの雨ながら、新年最初の定例活動日にて、多数が参加。

まず、お互いの安全と健やかな一年を願った。予定されていた森林作業は取止め、芝生広場並びに公園周辺の道路際の清掃活動、炭窯の木酢液取りのための竹製の煙り抜きを新しいものと取替え、炭窯周辺の整理等を行った。

昼は手作りの熱い甘酒で体を暖め、午後からは器具の手入等適宜作業の後流れ解散。

この日、葛城里山を守る会のメンバー5名の訪問あり。目的は竹林整備による竹の利用の一環として竹炭づくりを検討されており、当会のドラム缶窯の見学。

新年の挨拶



清掃活動



ドラム缶窯見学



1月20日(日) 搬出技術研修一水台線周辺林分

<林研グループ吸収源対策事業>

先月より、モデル林① 25年生ヒノキ 間伐率 40/20/0%の異なる伐倒、モデル林② 43年生ヒノキ 間伐率 30%の伐倒/造材技術研修を4回に亘り実施。

今日は、奈良市・都祁両森林組合の林家も参加頂き、北部農林振興事務所、森林技術センターの指導・協力の下、ひっぱりだこ(簡易ウインチ)・林内作業車を持ち込んでの、集材・搬出技術研修を実施。

冒頭、良材を育てるための間伐の時期、間伐率等に加え、市場動向に合わせた有利な採材方法につき説明を受けた後、モデル林②において、予め指導を受けて3・4mに玉切りした材の集荷・搬出実演を行った。

ひっぱりだこの据付



集材作業



林内作業車への積込



搬 出



荷降ろし



集 材 場



3月1日（土） 高取山共生の森整備・保全事業

「緑の募金」中央事業

本事業、今年度最後の活動が高取山「ENEOS の森」で行われた。今回は日頃この種活動に参加されている ENEOS の社員十数名に絞り込んで、当クラブのスタッフと共に、整備・保全作業。まずあらためて作業地の境界確認のため全員で約一時間かけ一巡。途中結構足下のきついところを踏ん張って歩いたため、作業前の十分なウォームアップとなった。

山頂付近と遊歩道沿いの二手に分かれて枝払い、低雑木・枯損木の処理を午後に跨って実施。昼食時に今年度の活動を振り返りながら、来年度の活動をより充実させるための意見交換を行った。

活動に参加し、自然とふれあい、非日常的な楽しい時間を過ごせ、ストレスの発散にも繋がったとの感想が述べられた。

作業風景



記念看板



作業風景



3月8日（土） 「野鳥の森」植林祭 「緑の募金」交付事業

奈良県森林ボランティア連絡協議会主催、(財)奈良県緑化推進協会後援により、矢田山遊びの森で今年で3回目となる植林祭が開催された。

長年放置された棚田に繁茂した竹を伐採し、笹・ツル・雑木を取除き整備し、野鳥が食べる実のなる木々を植え、野鳥の森づくりを目指すもの。

今回の苗木はヤマザクラ、ナナカマド、カキノキの大苗 60 本と、ガマズミ、ナツグミ、アキグミの小苗 30 本。毎回参加の子ども・いき・いき・サタデースクールから児童・父母を含め約 80 名に一般参加者を加え、約 130 名が、4 班に分かれ当クラブのスタッフの指導の下、一本一本植込み、早く根付くようにとしっかり足で踏み固めた。思い思いのメッセージを書き込んだ樹名板を取りつけ、班毎に参加者の氏名を書いた標柱を立て、記念撮影で午前中の作業を終了。

午後からは、ごみ収集を兼ねた自然観察、もちつき体験、クラフト体験にそれぞれ分かれて楽しく過ごした。

クラフトは松ぼっくり、木の実を使つてのタヌキ、クマ等のユニークな動物づくり。

一方では知恵の輪（ひも抜け）遊びの道具を自分で作ったものの、使いこなすには手こづっていたが、最後にリーダーから遊び方の説明に加え解説書もらい、帰る道すがら熱心に挑戦する姿が見られた。

開会式—来賓挨拶



作業手順の説明



家族力を会わせ



足下に気をつけて



記念のポーズを



餅—軟かくて温かい！



ヒモ抜き遊び奮闘中



松ぼっくり—何を作ろうか？



3月22日（土） 「万葉の森」づくり植林祭 —「緑の募金」公募事業—

（社）国土緑化推進機構から「緑の募金」交付金の助成を受け、平城遷都1300年記念事業協会、（財）奈良県緑化推進協会の後援を得て矢田山遊びの森で開催された。（この「緑の募金」は、全国47都道府県のローソン各店舗を通じて、多くの方々からお寄せいただいた寄付金から成り立っています。）

参加者120名強が情報館前に集まり、定刻に開会。県農林部北野次長、平城遷都1300年記念事業協会土井課長、（社）国土緑化推進機構杉山部長、（株）ローソン奈良川勝オペレーションマネジャー各来賓からの祝辞を頂き、全員で記念写真の後、「万葉の森」植栽地へ移動。かつて棚田であったところにササ、ツル、灌木が繁茂していたのを整備し、万葉集に詠まれた木々を植え、後々まで人々に親しまれる「万葉の森」づくりを目指し、合わせ地球温暖化防止の願いを込めて植林を行った。（面積 約0.8ヘクタール）

記念植樹に続いて、4班に分かれ各リーダー指導の下、一本一本心をこめて植込み、しっかりと足で踏み固め、樹名とそれを詠みこんだ和歌カードを取り付け最後に各参加者名を書き込んだ標柱を立てた。

植栽したヤマザクラ、イロハモミジ他20種（約200本）は、矢田山を訪れた人々からのアンケートにより選び出したもの。

老若男女幅広い参加者の中で、特に最年少6ヶ月の万葉（カズハ）ちゃんの参加はその名前の偶然の一致と合わせ目を引いた。「万葉の森」と同君が共に健やかに育ってくれることを願いつつ作業を終了した。

昼は、矢田山で採れた新鮮なシイタケと里芋がたくさん入ったおいしい豚汁を味わいながらの昼食。

午後からは、

①万葉樹木観察会

2組に分かれ観察指導員の案内で、「万葉の森」へのルート周辺で万葉集ゆかりの木々を探し、樹名+和歌カードを取り付けながらの観察。

②森のクラフト

子供達を中心に、木の実を使った動物のかわいいマスコットづくりを楽しんだ。

最後に、万葉集の中から矢田山を詠んだと思われる一句。

八田の野の 浅茅色づく 愛発山（アヲヤマ）

峯の沫雪 寒く降るらし （巻10-2331）

開会式一来賓祝辞



作業風景



人気の万葉ちゃん



豚汁一順番待ち



樹木観察会



森のクラフト



ドンクリの植込み



樹名+和歌カード

